



② さまざまな交通手段の連携による県内観光地へのアクセス・観光プロモーション強化事業

事業目的	事業概要	全体事業内容・期間	全体事業終了後の 重要業績評価指標	備考
夏の観光シーズンに比べ観光客が減少する秋(9～11月)において、過ごしやすい気候のもとで県内を周遊する新たな旅のスタイルを提案するべく、県内観光地へのアクセスを強化するとともに、県・市町村、宿泊・観光事業者も加わり、二次交通の確保や、さまざまな優待サービスの提供、観光イベントの集中開催など、県を挙げての一大観光キャンペーンを実施する。 また、この取組みにより交通アクセスの改善をアピールしながら当県観光の魅力を高め、泊まりがけて県内を周遊する観光スタイルの定着を目指す。	県中央部を縦貫する新動脈として圏央道の開通が進んでいることを契機に、成田空港から県内観光地へ新たに高速バスを運行させ、新たな人の流れ・観光需要を創出する実証実験を行う。	秋の全県的な観光プロモーション事業として定着するよう、以下のような方法により継続する。  【高速バス】 当面は県と市町村の委託事業として実施するが、認知度向上に伴う利用客数の増加を図りながら、停留所や運行ダイヤの改善、新たなルートの開設等により収益率を高めていき、需要が確立され商業ベースに乗ることが見込まれる5年後を目途に、民間事業者による営業運行への移行を目指す。	観光施設の年間入場者数 22,000人の増(平成31年度目標)	県及び関係市町の広域連携事業として実施

平成28年度事業実績	計画額	実績額	うち交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)					本事業終了後における実績値		実績値を踏まえた事業の今後について	
				指標		指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果 (A～Dの4段階)	今後の方針	今後の方針の理由
	単位:円	単位:円	単位:円									
〔成田空港と県内観光地を結ぶ高速バス実証運行事業〕 成田空港と鴨川市を結ぶ高速バスの実証運行に負担金を支出 ・運行期間 平成28年9月17日(土)～10月31日(月)(45日間) ・運行区間・回数 成田空港～鴨川・3往復/日 ・運賃 1,000円(1日乗り放題。成田空港発着航空便の利用者は無料) ・利用者数(利用率) 912名(8.4%)  ※このほか、バスの運行にあわせた関連事業として、市内に宿泊したバス利用者に対するレンタサイクルの無料貸出、観光施設の割引等の特典提供を交付金の対象外により実施	2,102,000	1,994,380	1,994,380	指標①	市内降車人数(成田→鴨川便)	500	人	H29.3	202	C:地方創生に効果があった。	事業の中止	利用者数が少なく、直ちに本格運行につなげることは困難と考えられるため、実証運行をもって終了とするが、総合戦略に掲げる「国際的な観光交流の促進」の観点から、効果的な誘客施策の検討・実施を図る。なお、県では今回の事業の後継事業として、県内発着観光バスツアー優待事業として支援事業を実施する。  29年度予算額 ―
				指標②	観光タクシー利用者数	300	人	H29.3	―	一定の利用はあったものの、指標値には及ばなかった。関連事業の観光タクシーについては、利用者に対する助成として実施予定だったが、関連事業に対する交付金を得られなかったことから実施していない。また、レンタサイクルの利用助成及び観光施設利用特別割引については、関連事業に対する交付金は得られなかったものの、観光協会及び各観光施設に協力を得て、当初の助成と比較して大幅に縮小して独自に実施したが、利用者も非常に低調であったことから、大きな効果があったとは言えない。		
				指標③	レンタサイクル利用者数(関連事業利用者数)	100	人	H29.3	0			
				指標④	観光施設入場者数(関連事業利用者数)	900	人	H29.3	2			

2 地方創生推進交付金事業

(1) 交付金の概要

- ① 目的

② 対象事業

③ 手続

④ 交付率

⑤ 国予算額
- 地方公共団体による、それぞれの地域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に資する事業の効率的かつ効果的な実施を図る。

(1)先駆性のある取組(先駆タイプ。5ヶ年度以内)

(2)先駆的・優良事例の横展開(横展開タイプ。3ヶ年度以内)

(3)既存事業の隘路を発見し、打開する取組(隘路打開タイプ。3ヶ年度以内)

地方公共団体は、対象事業に係る地域再生計画(5ヶ年度以内)を作成し、内閣総理大臣が認定

1／2

1,000億円(28年度予算額)

(2) 対象事業

○海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業  
(当初計画)

事業目的	事業概要	平成28年度	29年度	30年度	備考
日本の渚百選「前原・横渚海岸」及び沿岸に形成された商店街などの周辺地域について、健康づくりといった新たな魅力づくりにより、従来の海水浴やサーフィンだけではなく、年間を通じて市内外からの家族連れを含めた多様な利活用を促進する。 これにより、本市まち・ひと・しごと創生総合戦略において基本認識として掲げる「交流」と「健やかさ」にあふれる地域を創造するための拠点として海辺の活用を図るとともに、海岸沿いに広がる中心市街地の賑わいを創出する。	本市中心市街地に隣接する前原・横渚海岸及び東条海岸一帯を中心に、安全で安心に海水浴を楽しむことができ、サーフィンなどのマリンスポーツやビーチスポーツ、ウォーキング、海釣り、ビーチセラピーをはじめとする多様なレクリエーション・健康づくりに家族等で気軽に親しむことができる魅力ある環境を整備し、鴨川市への入込客数を増加させる。 また、市民会館周辺地域は、民間事業者を主体とした「健康づくり」等の利活用を見据えた拠点施設となる(仮称)前原・横渚海岸ビジターセンターや(仮称)交流広場の整備も含めた、海辺のまちづくりに係る検討・検証等を行うとともに、既存商店街及び周辺地域における空き店舗等を活用しながら、海岸との回遊性を高め、商業機能の回復や中心市街地における移住・定住を支援する。	●前原・横渚海岸周辺利活用計画の策定	●前原・横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会の開催 ●マリンスポーツ等を中心とした多様なレクリエーション機会の提供 ●レクリエーション等の商品化の方向性及び拠点施設に求められる機能の検証 ●安全で安心な海水浴場の確保 ●空き店舗等物件情報の収集・整理	●前原・横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会の開催 ●マリンスポーツ等を中心とした多様なレクリエーション機会の提供 ●レクリエーション等の拠点施設の整備 ●安全で安心な海水浴場の確保 ●空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援	横展開タイプとして採択
事業費(千円)	(全体)47,264	9,800	18,832	18,632	
重要業績評価指標(KPI)	事業開始時	平成28年度	29年度	30年度	備考
前原海水浴場及び周辺サーフポイントにおける入込客数(人)	110,000	121,000	132,000	143,000	33,000増
海岸におけるレクリエーション参加者数(人)	0	0	300	600	600増
商店等として新たに活用された空き店舗数(件)	0	0	0	5	5増

(平成29年5月変更後の計画)

事業目的	事業概要	平成28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	備考
日本の渚百選「前原・横渚海岸」周辺を基点として、アクティブシニアを対象とした「良質な日常の提供」というコンセプトのもと、地域全体におけるウェルネスリゾートを実現する。さらには、外房地域での東京オリンピックにおけるサーフィン競技開催を通じたサーフィンのまちとしての発信や、健康に関心の高い日本在住の外国人及び訪日外国人をターゲットにしたインバウンドの拡大を目指す。 また、同海岸周辺エリア全体の活性化により、観光客の消費額の増加や海岸沿いに広がる中心市街地の賑わい創出を図るとともに、同海岸を活用した健康づくりに関する体験プログラムの開発やウェルネスツーリズムの促進を一層図ることができれば、ブランドイメージ向上だけでなく、アクティブシニアを主な対象とする鴨川版CCRC構想の実現を含めた移住・定住を促す大きな要因になることから、これらを一体として実現していく。	合同会社鴨川市観光プラットフォーム(日本版DMO候補法人)を事業主体として、市内に立地する総合病院などと連携し、安心・安全な海岸環境のもと、サーフィンなどのマリンスポーツ等をはじめとする多様なレクリエーション・高付加価値な健康づくり活動などのコンテンツを、年間を通じて提供していく。これらの取組みと合わせ、同法人とともに、前原・横渚海岸及び東条海岸一帯を中心に、「良質な日常の提供」をコンセプトとした「WELLNESS BEACH(ウェルネスビーチ)」を形成する。 また、市民会館周辺地域は、エリア活性化の拠点施設として、民間資金も活用した(仮称)エリアマネジメントセンターや、海岸を活用したコンテンツ提供等を担う(仮称)魅力体験広場の整備も含めた、拠点機能の充実を図っていく。これらに合わせ、設置スペースに適したサイズ等の選択が可能で、人の流れにも柔軟に対応ができるコンテナショップによる実証や既存商店街及び周辺地域における空き店舗等を活用したチャレンジショップの開設支援などを図っていく。	●前原・横渚海岸周辺利活用計画の策定	●前原・横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会の開催 ●拠点整備方針の具現化及びエリアマネジメント体制構築 ●マリンスポーツ等を中心とした多様なレクリエーション機会の提供 ●海辺における交流拠点空間((仮称)魅力体験広場)等の整備 ●安全で安心な海水浴場の確保 ●空き店舗等の物件情報の収集・整理 ●DMO候補法人運営強化補助	●前原・横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会の開催 ●マリンスポーツ等を中心とした多様なレクリエーション機会の提供 ●海辺における交流拠点空間((仮称)魅力体験広場)等の整備 ●安全で安心な海水浴場の確保 ●空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援 ●民間参入業者の選定 ●プロジェクトマネジメント体制強化 ●DMO候補法人運営強化	●民間資金導入体制等構築 ●緑化等景観整備 ●空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援 ●プロモーション ●外国人観光客獲得に向けた調査 ●DMO候補法人運営強化 ●プロジェクトマネジメント体制構築	●エリアマネジメントセンター周辺の飲食・休憩施設整備 ●エリアマネジメント組織運営支援 ●プロジェクトマネジメント体制強化	先駆タイプとして採択
事業費(千円)	(全体)340,767	9,800	100,513	98,434	73,720	58,300	
重要業績評価指標(KPI)	事業開始時	平成28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	備考
前原海水浴場及び周辺サーフポイントにおける入込客数(人)	110,000	121,000	132,000	143,000	165,000	187,000	77,000増
海岸におけるレクリエーション参加者数(人)	0	0	300	800	1,800	2,800	2,800増
商店等として新たに活用された空き店舗数(件)	0	0	0	5	10	15	15増
観光消費額(百万円)	29,777	28,532	32,050	37,170	39,080	41,000	11,223増

(平成28年度事業)

平成28年度事業実績	計画額	実績額	うち交付金額	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				本事業終了後における実績値		実績値を踏まえた 事業の今後について	
	単位:円	単位:円	単位:円	指標		指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果 (A～Dの4段階)	今後の方針
[前原・横渚海岸周辺利活用計画の策定及び広報活動の実施] 前原・横渚海岸を核にフィッシャリーナからブロムナードを経て、市民会館、市営プール、東条海岸に至るまでの一帯の利活用について、従来型の観光だけではなく、健康づくりなどの分野で新たな交流を創出し、中心市街地との回遊性を高めるなど、地域が一体となって市内外の多様な交流を促進する方策について検討し、利活用に関する計画を平成29年2月に策定。これと併せ、シンポジウム等を実施 策定等に当たっては、コンサルティング業務を委託  ・市民向けシンポジウム 平成28年12月17日 参加者102名 ・学生シンポジウム 平成28年12月18日 参加者36名(市内大学生及び高校生、市職員等)  ※計画の検討にあたり、鴨川市商工会、鴨川市観光協会、鴨川市漁業協同組合、鴨川ライフセービングクラブ、城西国際大学観光学部及び関係行政機関等で構成する「前原・横渚海岸周辺の魅力づくり検討委員会」を設置・開催 ・委員数 18名 ・開催回数 6回	9,800,000	9,720,000	4,860,000	指標①	前原海水浴場及び周辺サーフポイントにおける入込客数(人)	121,000	人	H29	101,481	B: 地方創生に相当程度効果があつた。  [所見] 指標値は事業開始前の数値(110,000人)から減少しているが、計画を策定したことで、総合戦略の基本目標である定観光入込客数等の増加等に向けた取組みの基盤が整備された。  29年度予算額 100,513千円	追加等更に発展させる  [所見] 計画を踏まえ、コンテナショップ等を活用したチャレンジショップの開設支援を盛り込むとともに、日本版DMO候補法人として登録された合同会社鴨川市観光プラットフォームを観光地域づくりやコンテンツ提供の主体と想定し、エリアマネジメント体制の構築や運営強化、さらには外国人観光客獲得に向けた取組みなどを追加する。
				指標②	海岸におけるレクリエーション参加者数(人)	0	人	H29.3	0		
				指標③	商店等として新たに活用された空き店舗数	0	件	H29.3	0		